

私の義太夫觀（結語）

西村紫紅

義太夫は飽くまで藝術であり、我が藝道中最も至難にして傳統的精神に基づくものであることは、苟くも義太夫淨瑠璃を嗜む者は凡てそれを心後てゐる筈だ。私は前章で唯相手と覇を争ふために、廿分間淨瑠璃に没頭することは淨瑠璃道の異論者である旨を述べた。

されば審査會競演會に臨まるゝ人々に於ては、只々其の採點の高低にのみ執着せず、驕直に斯藝に専念鍊成して頂き度い、點が低かつたから稽古を止めるなど云ふ人々など、餘りにも淺薄である。私は現在淨瑠璃に興味を持ち且つ語りつゝある人々は、其の○速はあつても、必ずや名人達人にならるゝ人々だと思つてゐる。何故ならば各人

各様の熱心と鍊磨が重ねられてゐるのだから、ある時機に到達せば跳躍的に進境を示す人が出来るに相違ない、又私はそのやうな人々の輩出を希求してゐるのだ。

私は現下採點發表の形式が、相撲番附を模して作製せられてゐる事に一種の不種と不合理を感じてゐる。元來藝道であるべき義太夫淨瑠璃の優劣？を表示するに、相撲番附を何故模擬する要があるのか、而も横綱の稱號なども奇怪なものだと思ふ、藝道は藝道としてあらしめよと叫び度い、従つて發表方法など、他に適當な方法が編み出されて良からう。これは私の愚案だが、私は帝展の入選順仁に準據する方法も

一策かと思ふ。即ち私が本論第一に説いた九種の段階を三種宛、一級、二級三級と大別し、而して其の級と甲乙丙―各區分する（此の方法は當地少し義會に於ても既に採用してゐた）そして採點の數字などは演者の氏名雅號の上に冠すべきでなく、寧ろ其の點數は審査員のノートに留め置き、出演者中疑問ある方は事務所で閲覧するなり、又其の疑點を事務所まで申出で、各審査個々の意見及び點數と通達して貰ふなど、研究の一助にもなり又反省の種子ともなつて効果的であらう。

又現在では點の低い人の中から殊に優秀なる進歩せる演者の現はれたる場合、優勝旗を保持せしめて、其の進歩向上を表彰することになつてゐるが、之れも大體に於て面白くない。私は一二〇点以上を入選者と認め、一二〇点以下を、選外佳作の部に入れ度い。そして一二〇点以下の人に於て進歩顯著の演者に對しては、入選者と認め入選

賞を授與する。入選者一二三級を通じて技藝優秀拔群の成績には特選賞を授ける、又其の程度に應じて特選に値ひせぬ場合は、準特選賞を授けるも良しからう、勿論成績段階の累進は其の席次に於て表示される。一級中特選賞二級以上獲得せる人は、席次上位に氏名雅號を表示して其の名譽を表彰するなど、何處までも藝道らしい表示方法が講じられて欲しい。

出演者中各催し毎に演題の更新を行つてゐる人もあるが、私は同じ演題でも同一箇所でない處ならば決して差支へない、又二級以下の人に於ては、同じ箇所を再び繰り返し演出して、其の技の圓熟透徹と審査の聴査に訴へるも又研究心の熱意に對して満腔の賛意を表するものである。又採点の方法に於ての希望は其の演出の良否に對して、其の採点が其の都度變つてゐて當然であるのに、前点に拘泥して僅少の差に留めてある場合が見受けらるゝのは遺憾だ。

之等はそれ／＼相當の差等を設けて然るべしと思ふ。同一人が語つても其の時の出來榮に依つて高下するのが當然である。元來競演會の主目的は、斯藝の向上鍊磨を親睦とに存することは既に衆知のものである限り、審査員は常に温かい氣持ちで臨んでゐるのだから、能く演者の長所短所を認めて且つ當人の氣附かぬ缺陷、例へば口の開き方などに就て注意を促がすなどの親切心も必要だ。故森下蟻洞氏がイ行の發音に欠陥ありとか、サ行の發音に是正すべき要ありとか注意されたが之れなどは當人が無意識に其の惡癖を繰り返しつゝある場合に於て、最も良き指導者であつたことを想起する。事實淨瑠璃を語る上に於ての口唇の作用及び息の引き方などの影響は、聴者に與へる最も重要なものの一つであつて感興の原簿、情趣の適否に微妙な働きをなすものであることに想到し、之等に注意を促がすことも決して無意味な

ことではないのである。

以上幾々數回に亘つて贅言を弄し愚案を陳べたが、要するに私の義太夫觀は何處までも義太夫淨瑠璃は藝道である事、從つて斯藝の愛好、演者は崇高なる藝術家である事、藝術家たる以上斯藝の向上鍊成に努め、自己の惡癖矯正に吝かでない事を希ふ次第である。猶又採点各表形式も、藝術としての品位と威嚴を保つて頂き度い事を念願して茲に擱筆する。

ウンと働け

勝ち抜くために

